

「感想・気づき」

達成したい目標を立てて、オープンウィンドウで基礎思考および実践思考を書き出した。その中から、ルーティーン行動を決めて毎日実践しようとして努力した。たしかに、毎日実践できるとは限らないが、少しでも隙間時間があったときにはルーティーン行動に記載したことを実践すると、少しずつ研究テーマが増え始めた。ありがたいことに来年度の研究テーマは充実している。達成目標とオープンウィンドウ 64 を関連させて書き出しをすると成果につながりやすことが実感できた。

ペアコーチングでは、研究室所属学生 4 年生の 4 人に、個別に面談してコーチングした。各人ともすんなりと達成したい目標を口にしたので、是非達成させてあげたいと思った。4 観点、ルーティーン行動、期日行動などを思い浮かぶものの書き出しをして、ペアコーチングの書式を埋めていった。日をかえて 4 人そろってオープンウィンドウ 64 を実践した。4 人とも初めての取り組みであったが、意外に空欄が少なく実践行動の書き出しができていた。この資料をもとに長期目的用紙を正式に書いてもらい、提出してもらった。「主体変容」の言葉と共にストロークを入れて修正する箇所を提示した。日誌の書き方も同時に説明し、1 週間ごとに提出してもらい、私から個人ごとに日誌にストロークをいれて返すことを繰り返した。その成果だと信じたいが、模擬試験の正答率が 4 人とも上昇した。順位を大きく上げたものもいた。模擬試験の成績を学生に渡す際にも頑張ったことを認める言葉を使ってストロークをいれた。日誌を見てみると予定通り勉強ができた日とできなかった日などあるが、計画したことをなるべく実践しようとする気持ちが日誌から読み取れ、頑張っていることがよくわかった。ストロークの成果と各々が自分で決めた実践思考の実直な実践があったから成果が上がっていると信じて、これからも日誌の添削をしていき、教員と学生の良い関係を築いていきたいと考えている。

私は今年から大学教員として働いているが、本学の薬剤師国家試験の合格率はあまり芳しくない。来年度も自分の研究室配属の新 4 年生と新 5 年生（今回原田メソッドを始めた学生）を対象に日誌のやり取りを通してストロークを入れ続け、国家試験の合格率上昇に寄与したいと思う。私が認定パートナーとなった暁には、本学の全教員に原田メソッドを奨励し、学部をあげて合格率アップを目標に取り組めて行けたらと考えている。